

再 評 価 調 査 書

I 事業概要						
事業名	街路事業					
地区名	都市計画道路 <small>たはらちゅうおう</small> 田原中央線					
事業箇所	<small>たはらし</small> 田原市田原町					
事業のあらまし	<p><small>たはらちゅうおう</small> 都市計画道路田原中央線は、国道 259 号を起点とし、<small>たはらし</small> 田原市の中心市街地を東西方向に横断する路線であり、田原市都市計画マスタープランにおいて都市幹線道路として位置付けられ、市街地内の骨格的な幹線道路及び市街地や地区をつなぐ幹線道路である。</p> <p>本事業区間の沿線には、<small>たはらしやくしよ</small> 田原市役所、<small>たはらちゅうがっこう</small> 田原中学校、<small>たはらちゅうぶしょうがっこう</small> 田原中部小学校、<small>みかわたはらえき</small> 三河田原駅及び商業施設等が立地しており、交通車両や歩行者等の交通量が多い状況である。しかし、本事業区間は田原中部小学校の通学路に指定されているものの、十分な歩道幅員が確保されておらず、通学児童をはじめとする歩行者等の安全確保が課題となっている。</p> <p>また、本事業区間の前後区間については整備が完了しており、円滑な交通の確保のため、本事業区間の整備が求められている。</p> <p>このため、田原市の中心市街地を東西に連絡する幹線道路の強化とともに、「安全な歩行空間の確保」及び「市街地の交通円滑化」を主な目的として、現道の拡幅事業を実施するものである。</p>					
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>①交通事故対策の推進（安全な歩行空間の確保）</p> <p>②地域の活性化（市街地の交通円滑化）</p> <p>【副次目標】（必要に応じて記載する）</p> <p>—</p>					
計画変更の推移		事前評価時 (2015 年度)	再評価時(1 回目) (2021 年度)	再評価時(2 回目) (2025 年度)	変動要因の分析	
	事業期間	2016～2025	2016～2025	2016～2027	関連事業との調整による事業期間の延長	
	事業費（億円）	10.0	10.0	10.0	—	
	経費内訳	工事費	1.0	1.0	1.0	—
		用補費	8.5	8.5	8.0	事業費の精査による減額 (-0.5 億円)
その他		0.5	0.5	1.0	事業費の精査による増額 (+0.5 億円)	
事業内容	道路整備 延長 L=170m 幅員 W=16m 2 車線	同左	同左			

II 評価	
①事業の必要性の変化	<p>1) 必要性の変化</p> <p>【事前評価時の状況】 前後区間は既に整備済みであるが、本工区は道路幅員が狭く歩道も狭小である。小学校の通学路にも指定されているため、交通の円滑化及び歩行者等の安全性の向上が必要である。 また、田原市の街づくりにおいて、中心市街地の歩行者の回遊性向上を図っているため、連続した歩道の整備が必要である。</p> <p>【再評価時（1回目）の状況】 必要性に大きな変化はない</p> <p>【再評価時（2回目）の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田原中部小学校の通学路に指定されているが、十分な歩道幅員が確保されておらず、通学児童をはじめとする歩行者等の安全性向上が必要な状況は変わらないため、本事業の必要性に大きな変化はない。 ・前後区間が整備済である状況のなか、田原市都市計画マスタープランにおいて整備を促進する路線に位置付けられており、交通の円滑化が求められている状況は変わらず、本事業の必要性に大きな変化はない。 <p>【変動要因の分析】 大きな変動要因はない。</p>
	<p>判定</p> <p>B</p> <p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。 ※事業着手時と比較することが適切ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な歩道幅員が確保されていないこと、また、円滑な交通が求められていることなど、事業の必要性は着手時から変わらないため。

1) 進捗状況

【事業計画及び実績】

		2016	～	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	合計
工事区分	調査・設計	←→					←→					
	用地補償		←						→			
	工事						←→					
事業費(億円)	当初計画	2.0			8.0							10.0
	実績	2.0			7.0							9.0
	今回計画	2.0			7.0					1.0		10.0

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率	
	計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	達成率(%)【②÷③】
延長(km)	0.17	0	0%	0.17	0%
事業費(億円)	10.0	9.0	90%	10.0	90%
工事費	1.0	0.4	40%	1.0	40%
用補費	8.5	7.7	91%	8.0	96%
その他	0.5	0.9	180%	1.0	90%

※用地取得率(面積ベース) 100%

【施工済みの内容】

- ・施工済み区間はなし

2) 未着手又は長期化の理由

- ・用地交渉に時間を要していたため、事業が長期化していた。

3) 今後の事業進捗の見込み

【阻害要因】

- ・用地取得が完了し、大きな阻害要因はない。

【今後の見込み】

- ・2027年度までに整備が完了する予定である。

判定

B

- A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。
- B：次のいずれか(該当する項目に「○印」を付ける)
- ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
 - これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
 - ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
- C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。

【理由】

用地の取得が完了したため、2027年度までに整備が完了する見込みである。

Ⅲ 対応方針	
継続	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。
Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容	
<p>■対象（事業完了後5年目） □対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p style="text-align: center;">-</p> <p>【主な評価内容】</p> <p>交通量、安全性の改善状況</p>	